



平成16年 2月 9日

各 位

会 社 名 ジーエルサイエンス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 森 憲 司
(登録銘柄・コード番号 7705)

問い合わせ先

役職・氏名 取締役総務部長 高橋 良彰
T E L 03 - 5323 - 6633

当社子会社(テクノクーツ株式会社)の通期業績予想の修正について

当社子会社であるテクノクーツ株式会社は、平成15年11月21日付同社「平成16年3月期 中間決算短信(連結)」および同日付同社「平成16年3月期 個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました同社の平成16年3月期(平成15年4月1日~平成16年3月31日)通期の業績予想につきまして、別添資料のとおり、修正いたしましたので、お知らせいたします。

以 上

平成16年3月期 第3四半期業績の概況(連結・個別)
及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成16年2月9日

会社名  テクノクオーツ株式会社
(URL <http://www.techno-q.com>)

(コード番号:5217登録銘柄)

代表者 役職名 代表取締役社長
氏名 森 憲 司
問い合わせ先 責任者役職名 取締役 総務部長
氏名 千 葉 喜 夫

(Tel:(03)5354-8171)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における方法との相違の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無
記載の当第3四半期に係る数値については、監査法人の監査を受けておりません。
記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 平成16年3月期第3四半期業績の概況(平成15年4月1日～平成15年12月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
16年3月期第3四半期	2,873 (-)	3 (-)	24 (-)	74 (-)
(参考)15年3月期	3,744	30	1	38

	1株当たり 四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
16年3月期第3四半期	9	51	-	-
(参考)15年3月期	4	97	-	-

(2) 経営成績(個別)の進捗状況

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
16年3月期第3四半期	2,829 (-)	17 (-)	24 (-)	35 (-)
(参考)15年3月期	3,742	25	6	34

	1株当たり 四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
16年3月期第3四半期	4	59	-	-
(参考)15年3月期	4	48	-	-

(注)1.売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示します。

2.当連結会計年度は、四半期業績開示の初年度のため、前年同四半期実績及び対前年同四半期増減率は記載していません。

(3) 当第3四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象記載すべき事項はありません。

3. 平成16年3月期の業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(1) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
今回発表予想(A)	3,872	16	4	59	7円56銭
前回発表予想(B) (平成15年11月21日発表)	3,947	-	91	138	17円63銭
増減額(A - B)	75	-	95	79	
増減率	1.9%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績(平成15年3月期)	3,744	30	1	38	4円97銭

(注) 今回発表予想の1株当たり当期純利益の計算は、予想年間期中平均株式数によっております。

(2) 個別業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	
今回発表予想(A)	3,809	60	75	1	0円13銭
前回発表予想(B) (平成15年11月21日発表)	3,884	-	3	89	11円46銭
増減額(A - B)	75	-	78	90	
増減率	1.9%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績(平成15年3月期)	3,742	25	6	34	4円48銭

(注) 今回発表予想の1株当たり当期純利益の計算は、予想年間期中平均株式数によっております。

[経営成績(連結・個別)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期の国内景気は、世界経済の回復傾向に伴い回復の兆しが見込まれる状況となりましたが、急激な円高の影響には留意する必要があるものと思われまます。雇用情勢については、依然として厳しいながらも失業率は持ち直しの動きが見られており、半導体関連においても引き続き穏やかな回復基調の動きが見られます。

当第3四半期の個別売上高は、計画をやや下回ったものの、製造工程の改善効果、経費の削減等により利益率が向上した結果、前回発表では赤字を予測しておりました営業利益、経常利益ともに黒字に転じました。連結業績につきましては、中国子会社の立ち上げ遅延により業績の改善は、限られたものに止まりました。

平成16年3月期の通期業績につきましては、第3四半期の業績向上の流れが今後も継続するものと予想しているため、連結、個別ともに前回発表の通期業績予想を上記のとおり修正いたします。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上